

Cloud Data Governance and Catalogでデータをインサイトに変える

利点

- データを包括的に理解して、業務上の意思決定の信頼性を向上
- 統合したデータ/AIモデルガバナンス機能でAIの信頼性を確保
- 機密データを迅速に特定して、プライバシーのリスクを評価
- アナリティクスガバナンスのフレームワークを確立
- クラウドネイティブなサービスで簡単手軽に使い始め、迅速にスケールアップしながら運用コストを削減

データの探索、理解、統制、分析のためのクラウドネイティブな統合ツール

デジタルトランスフォーメーション (DX) のイニシアチブを推進する企業は、デジタル環境を整備して、適正なデータを従業員に提供し、ビジネスプロセスの変革、企業の差別化、ステークホルダー (利害関係者) のための価値創出を実現しなければなりません。一方、クラウドと自動化の普及により、プロセスをモダン化 (近代化) して、存在感を維持し、競争力を確保するための手段として、多くの組織がAIに目を向けています。

多くの企業がデジタルトランスフォーメーションへ継続的に投資しているにもかかわらず、そのメリットを獲得するのに苦労しています。その最も大きな原因が、重要資産である「データ」に関する集中的な取り組みが不足していることです。顧客体験の強化、新しいサービスの提供、法規制へのコンプライアンスの確保など、さまざまな使用事例へ対応するためには、データの利用者が信頼できるデータにアクセスできなければなりません。信頼できるデータに関するイニシアチブを成功させるためには、業務の生産性を高めて、データの品質を確保し、信頼できるアクセスを提供してビジネスリーダーの意思決定を支援するためのガバナンス機能が不可欠です。

Cloud Data Governance and Catalog : データの検出、理解、信頼性確保、民主化を実現

Informatica® Cloud Data Governance and Catalogは、データの検出、理解、ガバナンス、信頼性確保を実現するクラウドネイティブな統合ツールです。データのカatalog、ガバナンス、品質、民主化の各機能を備えた、新しい、単一のクラウドネイティブソリューションにより、データインテリジェンスを実現できます。

このマルチテナント型のSaaSソリューションは、クラウドデータレイク/データウェアハウスに大量のクラウドデータ資産を保有し、投資を最大活用してデータをインサイトに変えたいと考えているエンタープライズ企業向けに構築されています。Cloud Data Governance and Catalogは、データ検出、データリネージ、プロファイリング、ビジネスグロッサリ作成、利害関係者、ポリシーを管理するための機能を備えています。また、AIモデルとその実装を文書化/管理し、クラウドデータレイク/データウェアハウスのアナリティクスとデータガバナンスをセルフサービスで実行できます。

Cloud Data Governance and Catalogを既存のデータ環境に統合して、ハイブリッドソース (クラウドデータレイク/データウェアハウス、アナリティクス/BIシステム、データベース、ETLツール、その他のエンタープライズシステム) をスキャンできます。クラウドネイティブなソリューションのため、必要な時に、必要な規模のインフラストラクチャを利用できます。

主な機能

メタデータからインサイトを抽出するAI/ML搭載エンジン

大規模なデータエコシステムの管理とガバナンスには、自動化が不可欠です。Cloud Data Governance and Catalogにより、異種ソースからのメタデータ抽出、データ資産の分類、グロッサリ用語とデータの関連付けを自動化できます。また、スキーママッチングなどのAI/ML機能を用いて、データセット間の関係（結合やリネージなど）を推測できます。

ガバナンスとカタログの統合機能

単一のユーザーインターフェイスの検索機能を使用して、データ資産やガバナンスファセットを表示し、関係、メタモデル、リネージを探索できます。ビジネスオブジェクトと技術オブジェクトの相互関係を直感的に把握できます。また、クラウド/オンプレミスシステムを使用して、ビジネスオブジェクトから技術オブジェクトへとリネージをドリルダウンすることも可能です。

閲覧可能な階層とパワフルな検索機能

ユーザーは、自然言語を用いて重要なビジネス/技術資産を検索できます。フィルタリング機能やレビュー機能を使用すれば、目的の資産を迅速に特定して確認できます。また、このソリューションはビジネス/技術資産のパワフルな閲覧機能も備えているため、新任のデータアナリスト/データサイエンティストであっても、各種データ要素を処理内容に応じて理解できます。

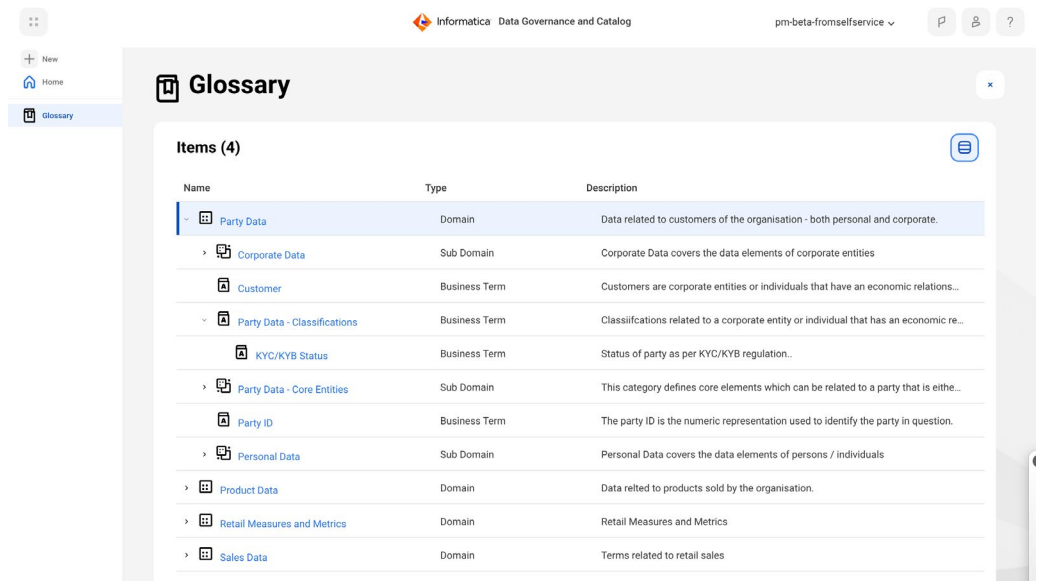


図1: グロッサリ内の全用語について、閲覧可能な階層を作成。

ワークフローとダッシュボード

インタラクティブかつグラフィカルなダッシュボードで、ユーザーは概要情報を視覚的に表示することができます。ビジネス関連指標（利害関係者/責任者の割り当てやグロッサリに関する指標など）や事前定義済みの自動ワークフローのモニタリング、タスク完了の確認、通知などを自在に実行できます。また、さまざまな視覚化機能やドリルダウン機能により、すばやく概要を確認して、詳細へと掘り下げることが可能です。

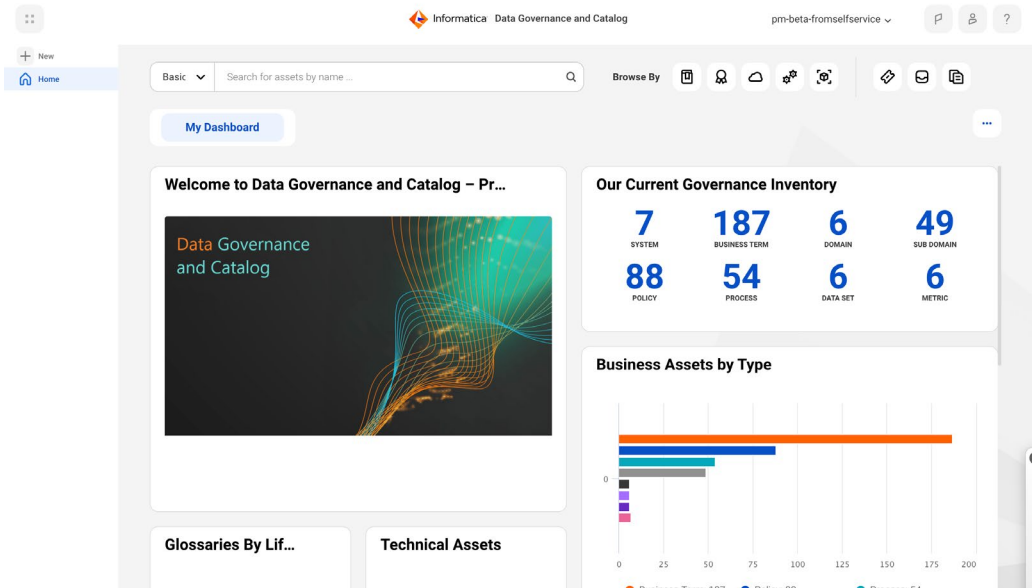


図2: インタラクティブで設定可能な一元管理ダッシュボードでビジネス資産、技術資産、ガバナンス資産を管理。

データリネージと影響分析

リネージビューを通じて、エンドポイントだけを表示する業務担当者向けのビューから他の複雑な詳細情報をすべて含んだ詳細ビューまで、データソースをあらゆるレベルでインタラクティブに追跡できます。また、データベース内のSQLスクリプトやストアードプロシージャも解析できます。リネージビューはドリルダウンが可能で、すべてのリネージパスが展開可能なため、列レベルおよびメトリックレベルの詳細なリネージを確認できます。また、上流/下流のデータ資産に関する詳細な影響分析を実行できます。

リネージのオーバーレイを使用すれば、ビジネス/技術指標 (利害関係者、ポリシーの影響、グlossary、用語の定義など) に基づいて追跡できます。

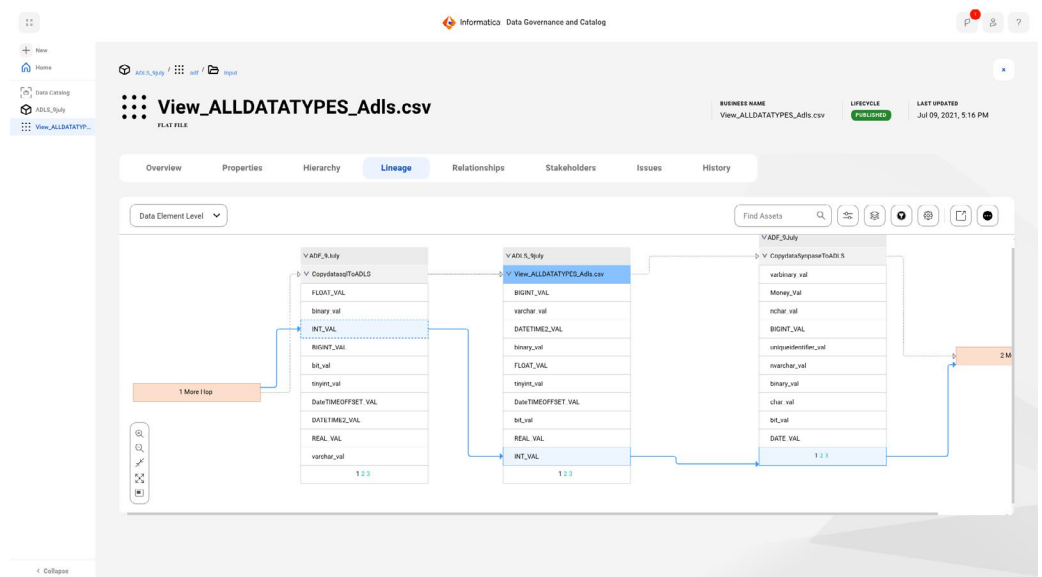


図3: ソースからターゲットまでのデータリネージをデータ要素レベルで探索。

ドメインとエンティティをインテリジェントに認識してプロファイリングと分類を自動化

すべての構造化／非構造化データ資産に関して、データ要素やエンティティ（顧客、製品、注文など）を項目、列、テーブルレベルで自動的にプロファイリング、分類、特定します。

AIモデルガバナンス

AIモデルガバナンスにより、特定の期間内に構築したモデルを可視化して、その目的、基盤となるアルゴリズム、モデル構築時に使用したトレーニング用データ、そのデータの品質とリネージ、関連するポリシーなどを把握できます。モデルのパフォーマンスと主要指標（モデルのパフォーマンス低下につながるデータドリフトなど）をトラッキングおよびモニタリングできます。

メリット

データを包括的に理解して、業務上の意思決定の信頼性を向上

Cloud Data Governance and Catalogにより、企業データを多角的に可視化できます。パワフルなセマンティック検索を通じて、最も関連性の高いデータ資産を探索できます。データリネージビューにより、データフローの全体像（ソース、データセットの作成方法、データセットの品質、フローにおけるデータ変換など）を把握できます。これにより、正確性、完全性、信頼性に優れたデータに基づいて、業務上の意思決定を行えます。ビジネスグロッサリの用語、利害関係者や関係に関するインサイト、ポリシー、分類の関連付けが自動で実行されるため、すべてのデータ利用者が豊富なビジネスコンテキストを利用できます。

機密データを迅速に特定して、プライバシーのリスクを評価

データスチュワードは、プライバシーリスクとなる可能性のあるデータ／データセット共有のリネージを迅速に特定して、機密情報ポリシーへのコンプライアンスに関するインサイトを獲得できます。透明性の高いデータ保護計画により、顧客情報をリスクに晒す危険性を抑制し、不正利用やデータ漏えいのリスクを回避できます。

統合したデータ／AIモデルガバナンス機能でAIの信頼性を確保

現在はデータサイエンスの時代です。にもかかわらず、AIモデルの多くは、低品質のデータセットに基づいて構築された不透明なもので、組織の方針に準拠していない可能性もあります。AIモデルガバナンス機能により、構築したモデルに関するインサイト（モデルのトレーニングに使用したデータ、モデルの出力結果、関連ポリシーの影響、再利用可能なモデルなど）を獲得できます。これにより、関連性の高いモデルを利用して、リネージを把握し、関連するポリシーを確認できます。また、データドリフトを可視化して、モデルの予測能力への影響を把握できます。

アナリティクスガバナンスのフレームワークを確立

Cloud Data Governance and Catalogの主なメリットの1つが、アナリティクスガバナンスフレームワークを迅速に確立できることです。インタラクティブなダッシュボードにより、ガバナンスを監視するための指標の表示／追跡／レポート、アナリティクスのKPIの定義、コンテキストの理解につながるグロッサリ階層の作成、データの利用条件やポリシー階層の定義、イベントや変更に基づいてトリガーを実行する自動ワークフローの設定などを行うことができます。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

データインテリジェンスでビジネスを促進

意思決定は、必ず信頼できるデータとインサイトに基づいて行う必要があります。世界中に分散しているすべてのチームが必要な情報へアクセスできる環境を確立することは、極めて重要です。Cloud Data Governance and Catalogによって、必要なデータおよびこれらのデータに基づくAIモデルを特定して理解を深め、管理し、信頼して活用することが可能になります。詳細は[インフォマティカWebサイト](#)で各種資料をご覧ください。インフォマティカまで直接お問い合わせください。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN06_0721_04152

© Copyright Informatica LLC 2021. Informatica、Informaticaロゴは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。